

東国分中学校ブロック

第8回 義務教育学校の設置に関する検討委員会

令和3年6月2日（水） 17：00～18：00
市川市立東国分中学校 技術室

第8回検討会の主な内容

- 第1回プロジェクト会議について
- 意識調査について

1 委員長挨拶

2 報告

- （1）第1回プロジェクト会議について
- （2）意識調査について

3 その他

東国分中学校ブロック 第9回義務教育学校の設置に関する検討委員会の予定

○日時：令和3年10月上旬（予定）

○場所：東国分中学校（予定）

1 報告

(1) 第1回プロジェクト会議について（別紙「プロジェクト会議だより」）

- ・日時 令和3年5月12日（水）9時30分～10時40分
- ・場所 市川市立東国分中学校
- ・参加者 大学教授
各学校（東国分中、曾谷小、稲越小）の校長、教頭、教務主任
市川市教育委員会（指導課、学校環境調整課）の担当者
- ・内容 ①東国分爽風学園のグランドデザインについて
②今後の進め方について

(2) 東国分爽風学園 意識調査について（別冊資料）

- 実施期間 令和3年4月30日（金）から5月7日（金）
- 対象 東国分爽風学園の3校の児童生徒、保護者および教職員
- 回答数

	東国分中学校	曾谷小学校	稲越小学校
児童生徒	3 1 1 （3 2 6）	2 5 7 （2 6 7）	1 3 8 （1 4 7）
教職員	2 1	2 5	1 4
保護者	1 8 7	2 4 1	1 1 2

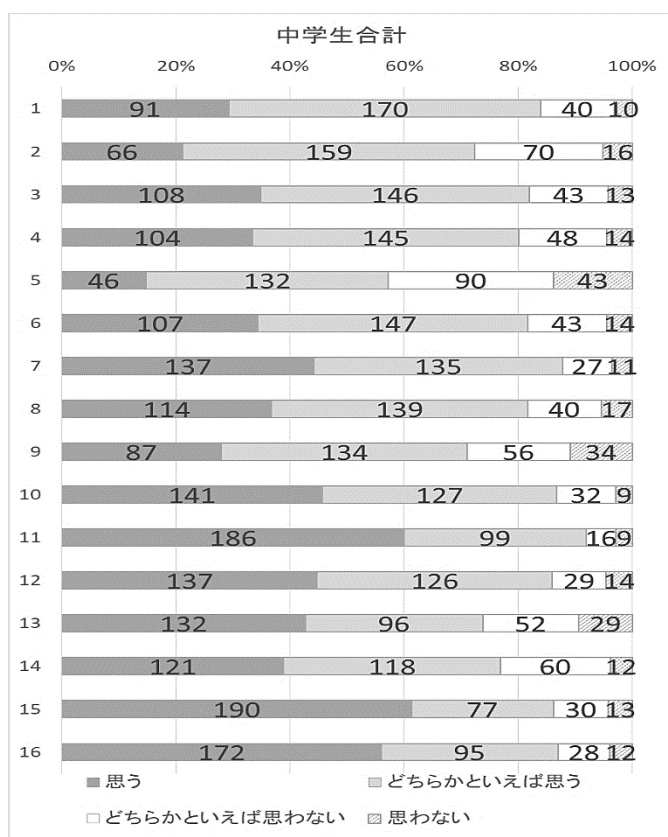
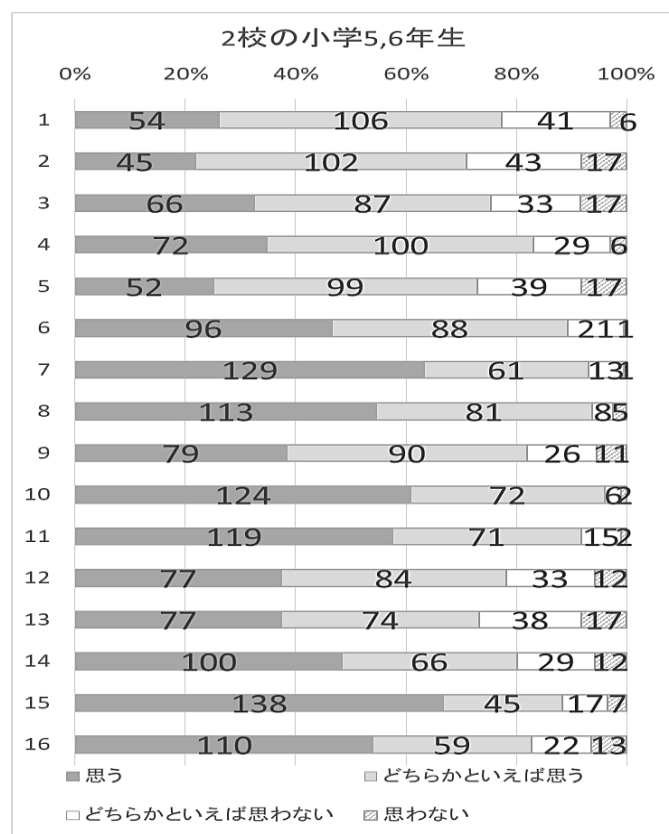
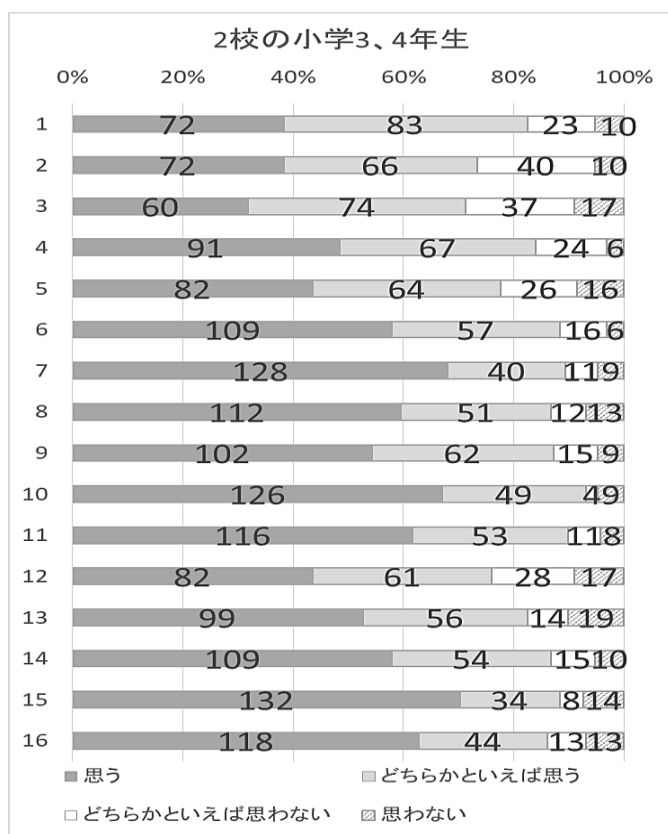
（ ）は5月1日現在の在籍数

児童生徒

①現在の学校生活について、あてはまる数字に○をつけてください。

（4 思う 3 どちらかといえば思う 2 どちらかといえば思わない 1 思わない）

（ 1 ）授業では、自分から、積極的に参加していると思う。	4	3	2	1
（ 2 ）授業では、自分の意見や考えを、学級やグループに伝えられていると思う。	4	3	2	1
（ 3 ）話し合う活動を行うことで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	4	3	2	1
（ 4 ）授業で学習したことを、次の学習内容や他の学習に生かすことができていると思う。	4	3	2	1
（ 5 ）学習することは好きである。	4	3	2	1
（ 6 ）学習の内容がよくわかる。	4	3	2	1
（ 7 ）学習の内容がわかると、やる気が出る。	4	3	2	1
（ 8 ）先生は、わからないことや質問に対して、わかりやすくアドバイスしてくれる。	4	3	2	1
（ 9 ）自分には良いところがあると思う。	4	3	2	1
（10）先生は、良いところをほめてくれる。	4	3	2	1
（11）友だちや別の学年の子がこまっていたら、助けてあげたいと思う。	4	3	2	1
（12）友だちと話しているときに、あいての気持ちになって聞いたり、話したりしている。	4	3	2	1
（13）いやなことがあったとき、友だちや物にあたることはない。	4	3	2	1
（14）友だちが誰かにめいわくをかけるようなことをしていたら、注意できる。	4	3	2	1
（15）気軽に相談できる友だちや大人がいる。	4	3	2	1
（16）アドバイスや注意してくれる友だちがいる。	4	3	2	1



質問の(1)から(4)を「教育課程の効果」、(5)から(8)を「教科担任制の効果」、(9)から(12)を「自己肯定感、思いやりの心の育成」、(13)から(16)を「問題行動の防止」の4つの観点に分け、小中一貫教育の効果について検証していくために実施した。

「教育課程の効果」では、小・中学校ともに約8割の児童生徒が「思う」「どちらかといえば思う」を選んでおり、今までの教育課程によって学習に対する意欲が高まっていることがわかる。

「教科担任制の効果」では、「(5) 学習することは好きである」の質問に対して、小学校は約8割が肯定的に答えているのに対し、中学校では約6割となっている。

「自己肯定感、思いやりの心の育成」では、「(9) 自分には良いところがありますか」の質問に対して、小学校は約8割以上が「思う」「どちらかといえば思う」と回答しているが、中学

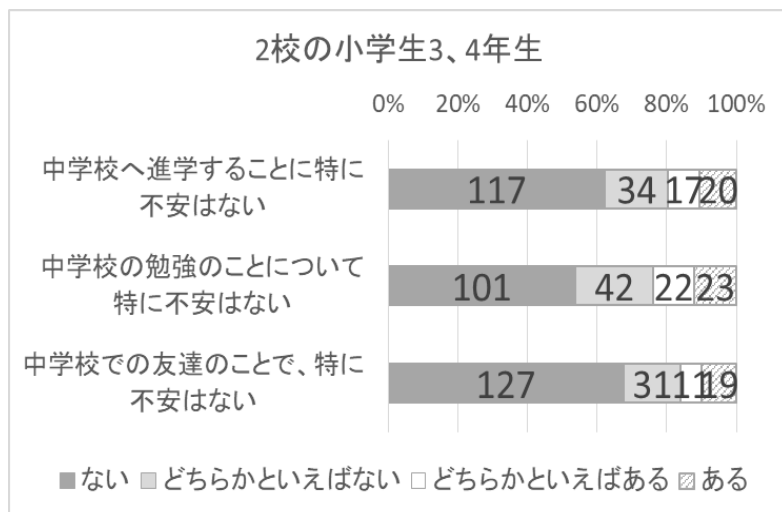
校では約7割となっている。

「問題行動の防止」では、「(13) いやなことがあったとき、友だちや物にあたることはない」の質問に対して、3・4年生では約2割、5・6年生および中学生では約3割の児童生徒が、「思わない」「どちらかといえば思わない」を選んでいる。

②中学校へ進学することについて、あてはまる数字に○をつけてください。(小学生のみ実施)

(4 ない 3 どちらかといえばない 2 どちらかといえばある 1 ある)

(1) 中学校へ進学することについて、特に不安はない。	4	3	2	1
(2) 中学校の勉強のことについて、特に不安はない。	4	3	2	1
(3) 中学校での友だちのことで、特に不安はない。	4	3	2	1
(4) 不安に感じることがある人は、□に書いてください。合わせて理由も教えてください。				



中学校への進学に対する不安等を示す「中1ギャップ」についての意識調査を、小学生に対して実施した。

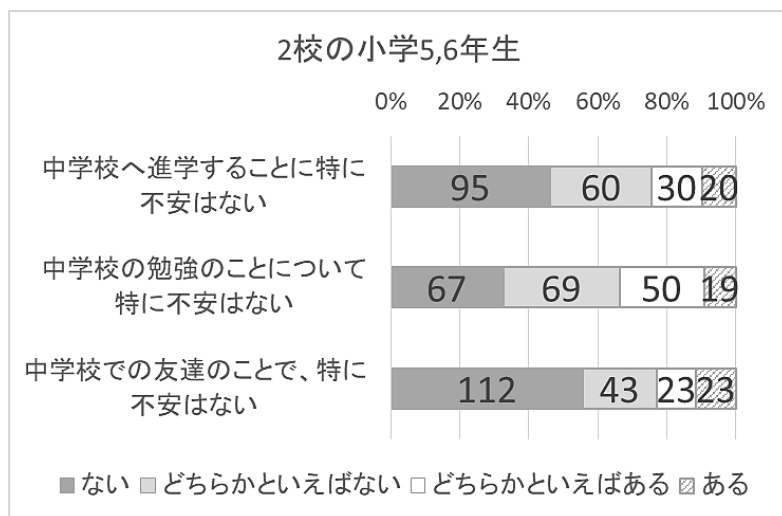
3・4年生では、約8割以上が、中学校への進学や学習、友人について「ない」「どちらかといえばない」としている。

「ある」「どちらかといえばある」を選んだ約2割の子どもの主な理由としては「友だちとなかよくできるか不安」、「いじめやけんかがないか不安」を挙げている。

5・6年生では、進学への不安と友人関係の不安については約8割、学習に対する不安については約7割が「ない」「どちらかといえばない」を選んでいる。

「ある」「どちらかといえばある」を選んだ理由としては、ほとんどが「いじめが不安」、「勉強の内容が難しくなることで、ついていけるか不安」と回答している。

中学年、高学年ともに「いじめ」と「学習」に対する不安を持つ子ども



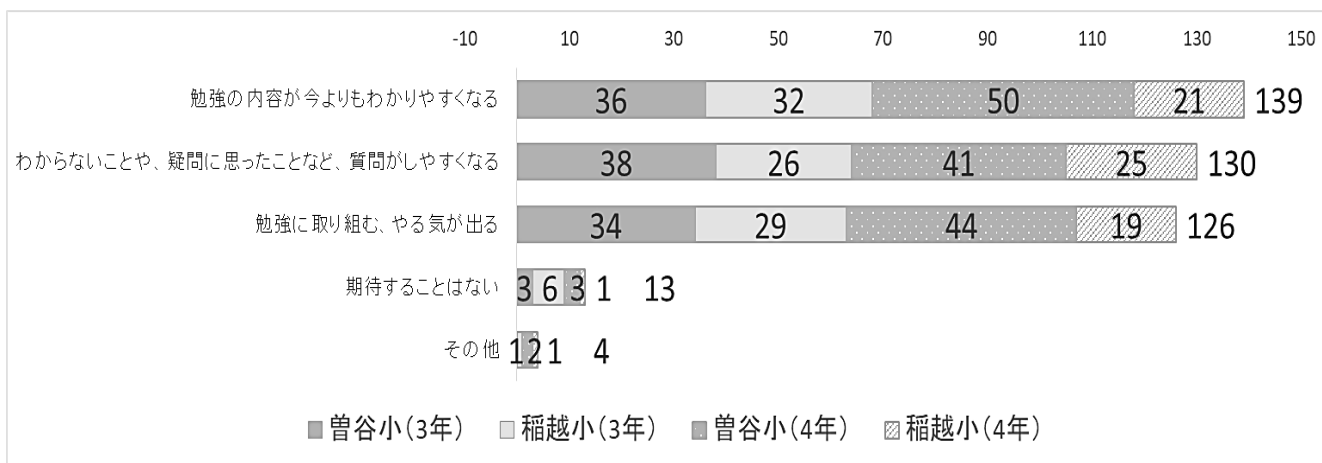
が約2割から3割いる。

③東国分爽風学園では、小学校と中学校の両方の先生方から授業をしてもらうことができます。
 どんなことを期待しますか。当てはまるもの全てに○をしてください。

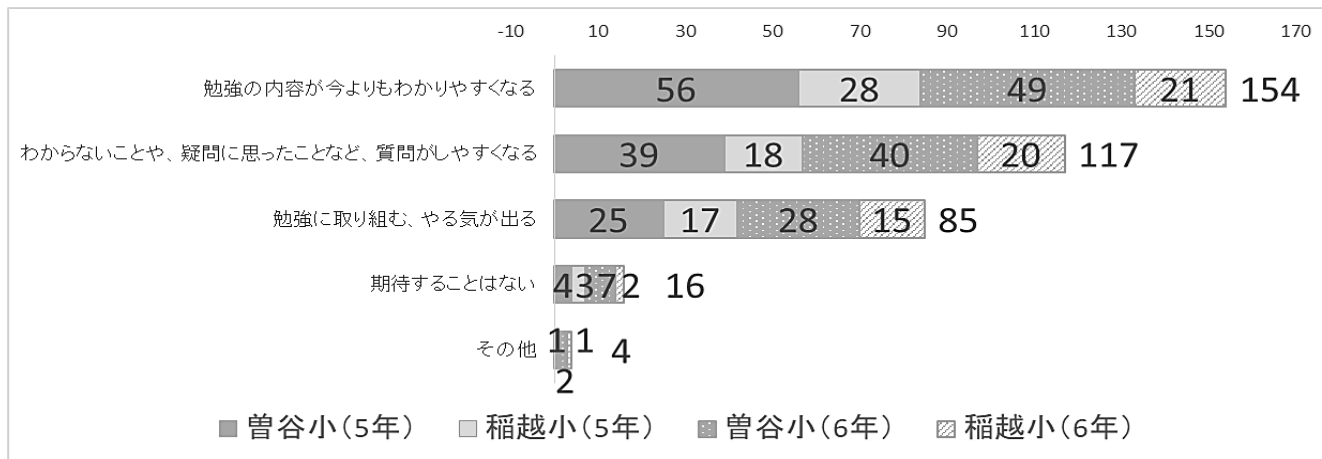
<小学生>

- ・学習の内容が今よりも分かりやすくなる。
- ・学習に取り組む意欲が増す。
- ・わからないことや疑問に思ったことなど、質問がしやすくなる。
- ・その他（記述）
- ・期待することはない

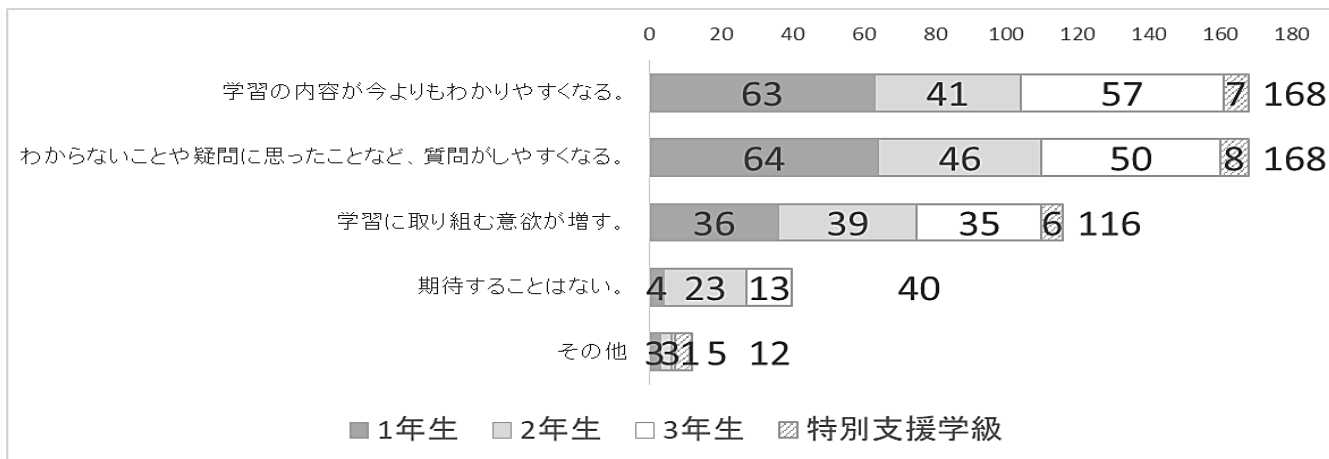
< 3 ・ 4 年生 >



< 5 ・ 6 年生 >



<中学生>



小・中学校の両方の教員による授業について、小、中学生とも「学習の内容が今よりもわかりやすくなる」、「わからないことや疑問に思ったことなど、質問がしやすくなる」の順に、多くの子どもたちが選んでいた。「学習に取り組む意欲が増す」については、学年が上がるにつれて減少している。

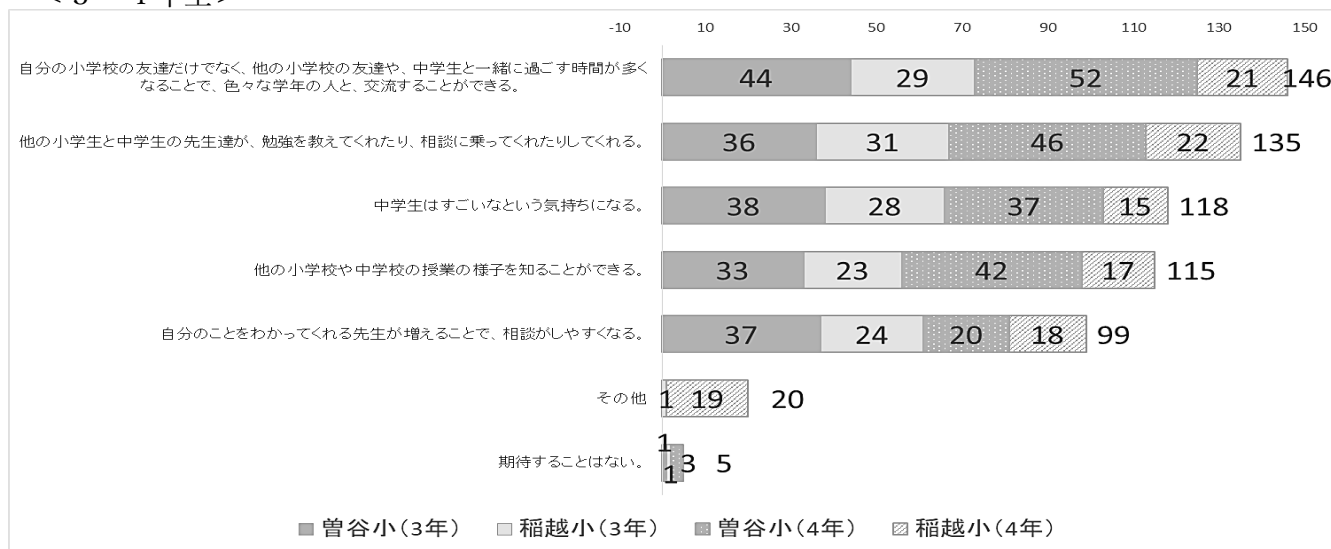
「その他（自由記述）」では、「友だちが増えそう」、「相談しやすくなる」と書いている子どもがいる一方、「楽しみにしていない」、「そんなに変わらないのではないか」、「中学校の先生が小学生に対してわかりやすく教えてくれるのか不安」などの記述もあった。

「期待していない」の理由では、「今と変わらないのではないか」との記述がほとんどであった。

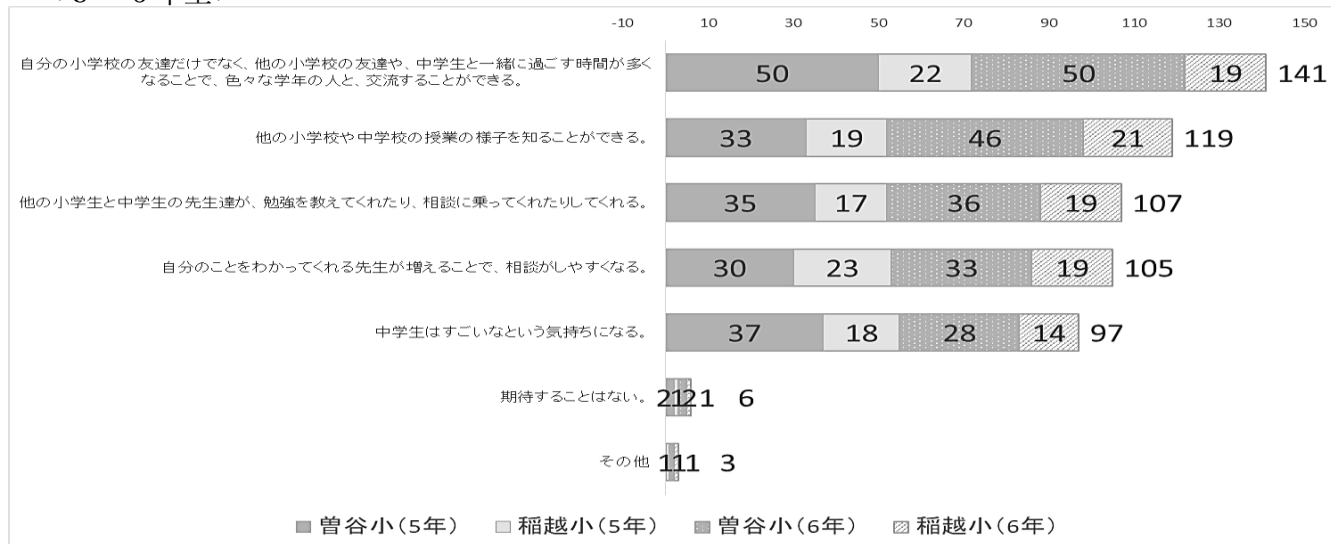
④東国分爽風学園では、小学生と中学生と一緒に学習したり、交流したりすることができるようになります。どんなことに期待しますか。あてはまるものに全て○をつけてください。

- ・中学生へのあこがれの気持ちが持てる。
- ・小学生と中学生の先生たちが、学年や学校に関係なく関わってくれる。
- ・自分の小学校の友だちだけでなく、他の小学校の友だちや、中学生と関わりを多く持つことで、様々な学年の人とコミュニケーションをとることができる。
- ・他の小学校や中学校の授業の様子を知ることができる。
- ・自分のことを理解してくれる先生が増えることで、相談がしやすくなる。
- ・その他（記述）
- ・期待することはない。

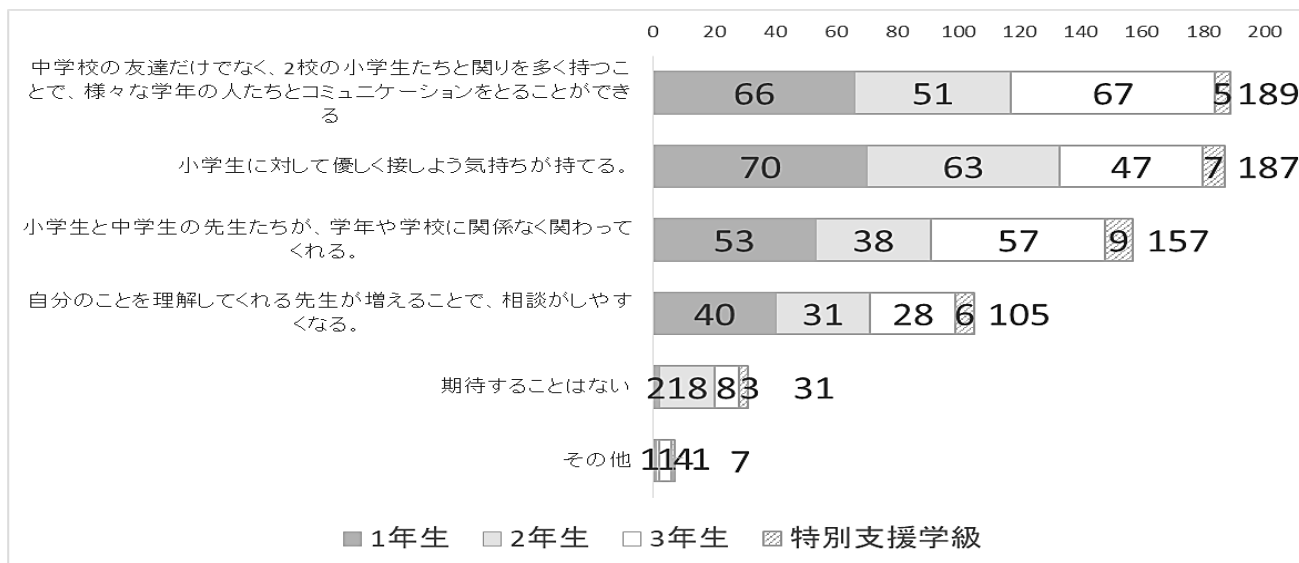
< 3・4年生 >



< 5・6年生 >



<中学生>



小学生と中学生の交流について、小学校の中学年、高学年ともに「自分の小学校の友だちだけでなく、他の小学校の友だちや、中学生と関わりを多く持つことで、様々な学年の人とコミュニケーションをとることができる」が一番多く、次いで、中学年では「小学生と中学生の先生たちが、学年や学校に関係なく関わってくれる」、「中学生へのあこがれの気持ちが持てる」の順に、高学年では「他の小学校や中学校の授業の様子を知ることができる」、「小学生と中学生の先生たちが、学年や学校に関係なく関わってくれる」の順になっていた。

中学生では、「中学校の友だちだけでなく、2校の小学生たちと関わりを多く持つことで、様々な学年の人とコミュニケーションをとることができる」と「小学生に対して優しく接しようとする気持ちが持てる」がほぼ同数で多く、次いで「小学生と中学生の先生たちが、学年や学校に関係なく関わってくれる」、「自分のことを理解してくれる先生が増えることで、相談がしやすくなる」となっている。

このことから、小学生、中学生ともに、他の小学生と中学生との交流の機会が増えることに期待をしていると言える。

その他（自由記述）でも、小・中学生の交流に期待をしている記述が多かった。

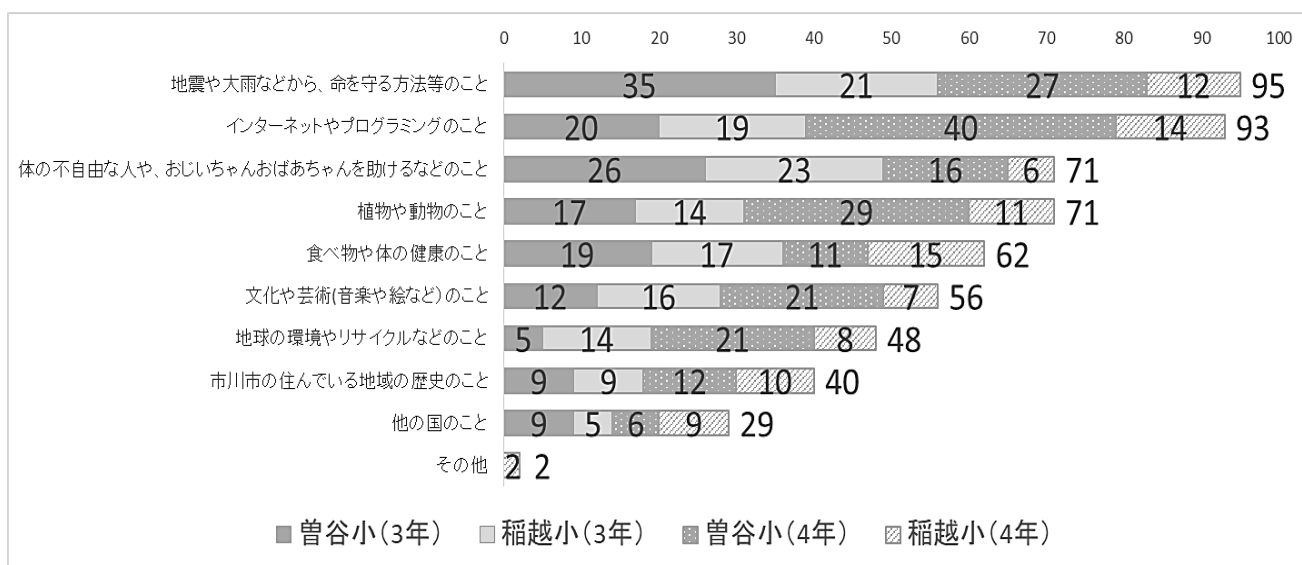
「期待することはない」の理由として、小学生は「交流がおもしろそうではない」「中学生に見下されそう」などがあった。中学生では「今と変わることはない」「今のままで満足」などが多く、3年生は「卒業していなくなるから」が多かった。

⑤東国分爽風学園では、他の小中学校には無い「新しい教科」をつくることができます。

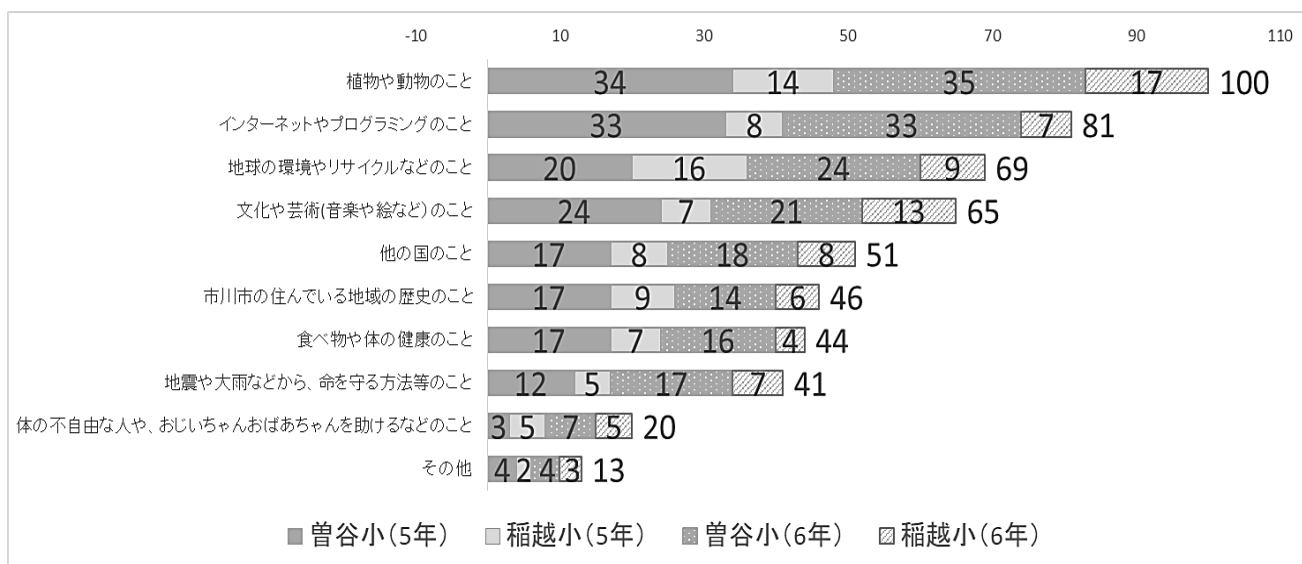
どんな教科をつくって学びたいですか。次の中から1～3つ（3つ以内）を選び、四角の中に○をつけてください。

市や地域の歴史		防災のこと		環境のこと	
食や健康のこと		情報のこと		文化・芸術のこと	
福祉のこと		植物や動物のこと		他の国のこと	
その他（	）				

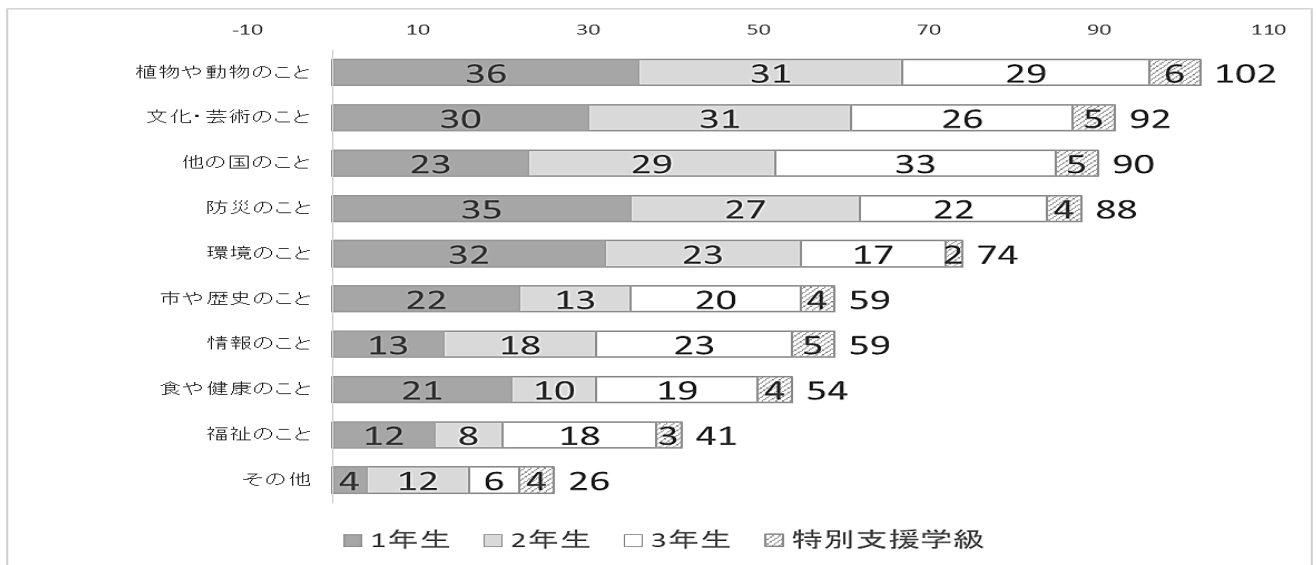
< 3・4年生 >



< 5・6年生 >



<中学生>



小学校の中学年では「防災」、「情報」が最も多く、次いで「福祉」、「植物や動物」となった。
高学年では「植物や動物」が最も多く、次いで「情報」、「環境」、「文化・芸術」となった。

中学生では「植物や動物」が最も多く、「文化・芸術」、「他の国の文化」、「防災」となった。

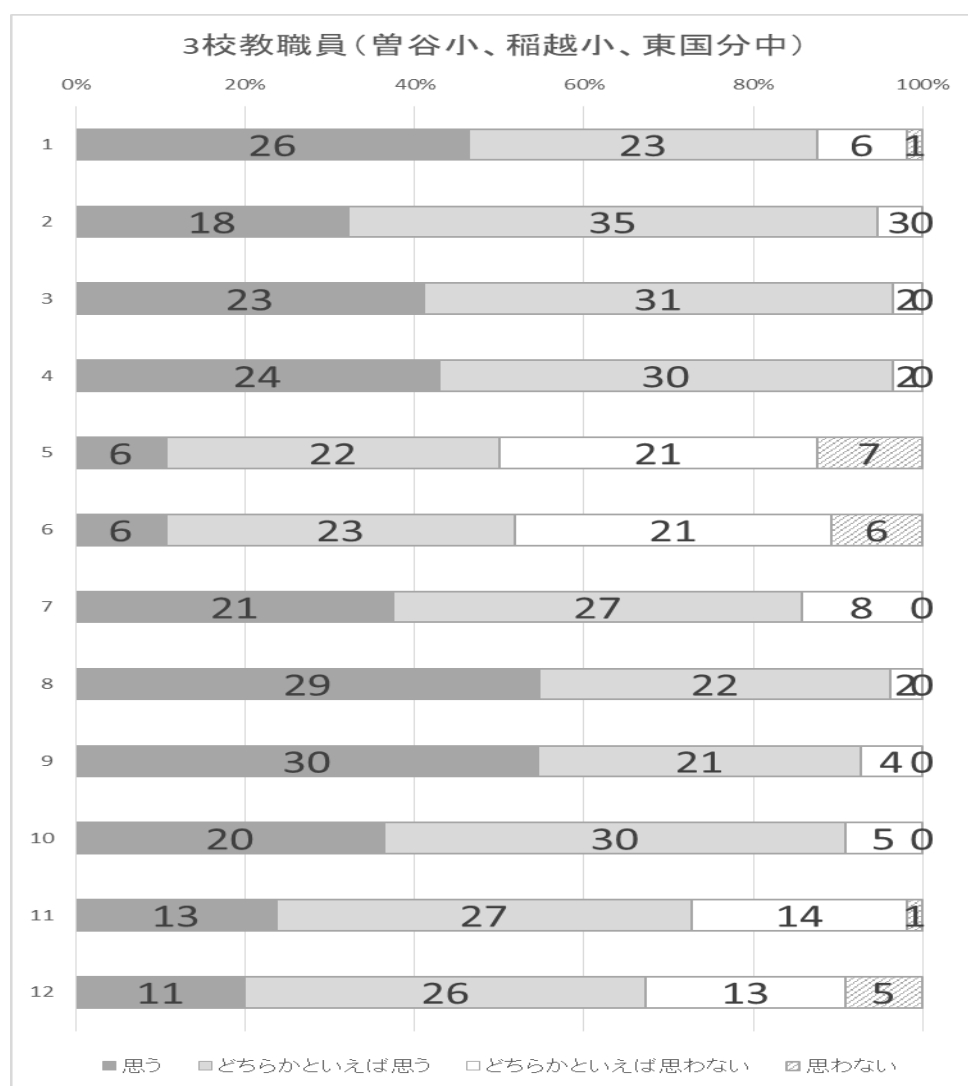
その他（自由記述）の、小学生では「宇宙や星」、「人権」、「体の仕組みや細胞」、「医療」などが、
中学生では「オリンピック」、「人種」、「政治」、「社会問題」、「SDGs」、「ゲーム」などがあった。

教職員

①現在の教育活動について、あてはまる数字に○をつけてください。

(4 思う 3 どちらかといえば思う 2 どちらかといえば思わない 1 思わない)

(1) 学級だけでなく、学年や他学年の先生方と連携して授業を行っている	4	3	2	1
(2) 他の教科や別の学年とのつながりを意識して授業を行っている	4	3	2	1
(3) 子供たち一人一人の特性に応じた生徒指導をしている	4	3	2	1
(4) 子供たちを褒めることが多い	4	3	2	1
(5) 子供たちは、自己肯定感が高い	4	3	2	1
(6) 子供たちは、問題行動や不登校の数が少ない	4	3	2	1
(7) 自分の学年だけでなく、他の学年とも連携して授業や生徒指導を行っている	4	3	2	1
(8) トラブルがあった場合は、学年だけでなく、他学年の先生方や管理職と連携して対応している	4	3	2	1
(9) 授業は、一人で行うよりもチーム・ティーチングなど、複数で行う方が効果がある	4	3	2	1
(10) 担当している校務（校務分掌など）は、複数の先生方と協力して行っている	4	3	2	1
(11) 担当している校務は、効率的にできている	4	3	2	1
(12) 担当している校務は、負担ではない	4	3	2	1



質問の（１）と（２）を「授業の改善」、（３）から（６）を「児童生徒への理解の深まり」、（７）から（９）を「協働体制の構築」、（１０）から（１２）を「校務の効率化や質的な向上」の

4つの観点に分け、小中一貫教育の効果について検証していくために実施した。

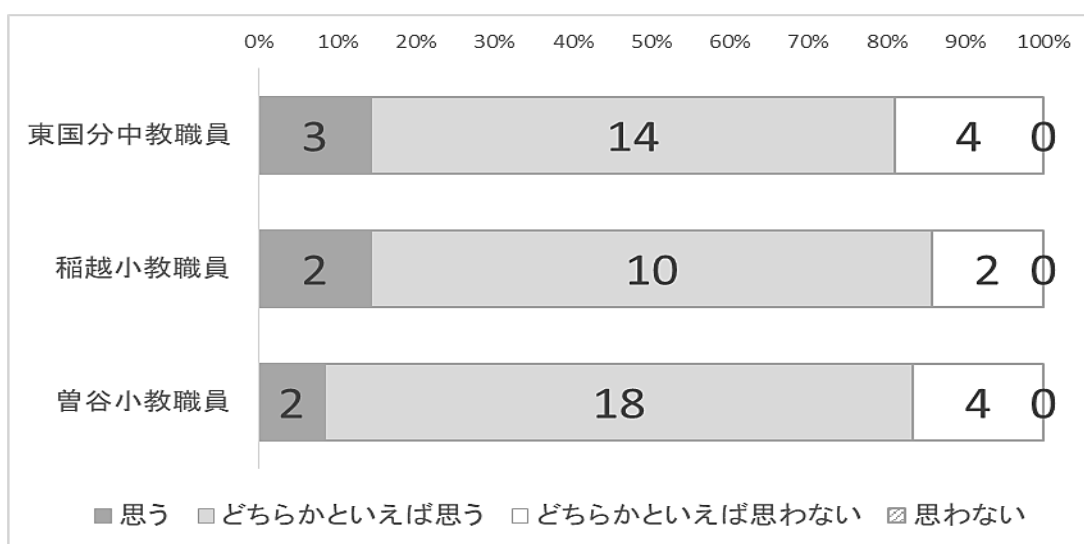
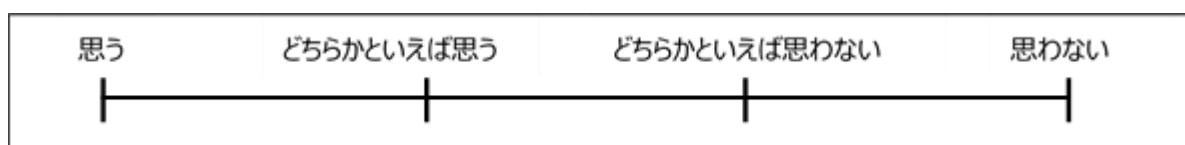
「授業の改善」では、約9割が「思う」「どちらかといえば思う」と回答していることから、学年の先生や他学年の先生と連携して授業を行い、他教科や別の学年とのつながりを意識した授業を行っていることがわかった。

「児童生徒への理解の深まり」では、「(3) 子供たち一人一人の特性に応じた生徒指導をしている」、「(4) 子供たちを褒めることが多い」の設問において、ほぼ全員が「思う」「どちらかといえば思う」と回答している。一方、「(5) 子供たちは自己肯定感が高い」、「(6) 子供たちは、問題行動や不登校の数が少ない」では、「思う」「どちらかといえば思う」と「思わない」「どちらかといえば思わない」が半々となっている。

「協働体制の構築」では、約9割が「思う」「どちらかといえば思う」と回答しているから、授業や生徒指導において、教職員の連携が図られていることがわかった。

「校務の効率化や質的な向上」では、「(12) 担当している校務は負担ではない」の設問において「思う」「どちらかといえば思う」が約8割、「(11) 担当している校務は、複数の先生方と協力して行っている」、「(12) 担当している校務は効率的にできている」では、約7割が「思う」「どちらかといえば思う」と回答している。

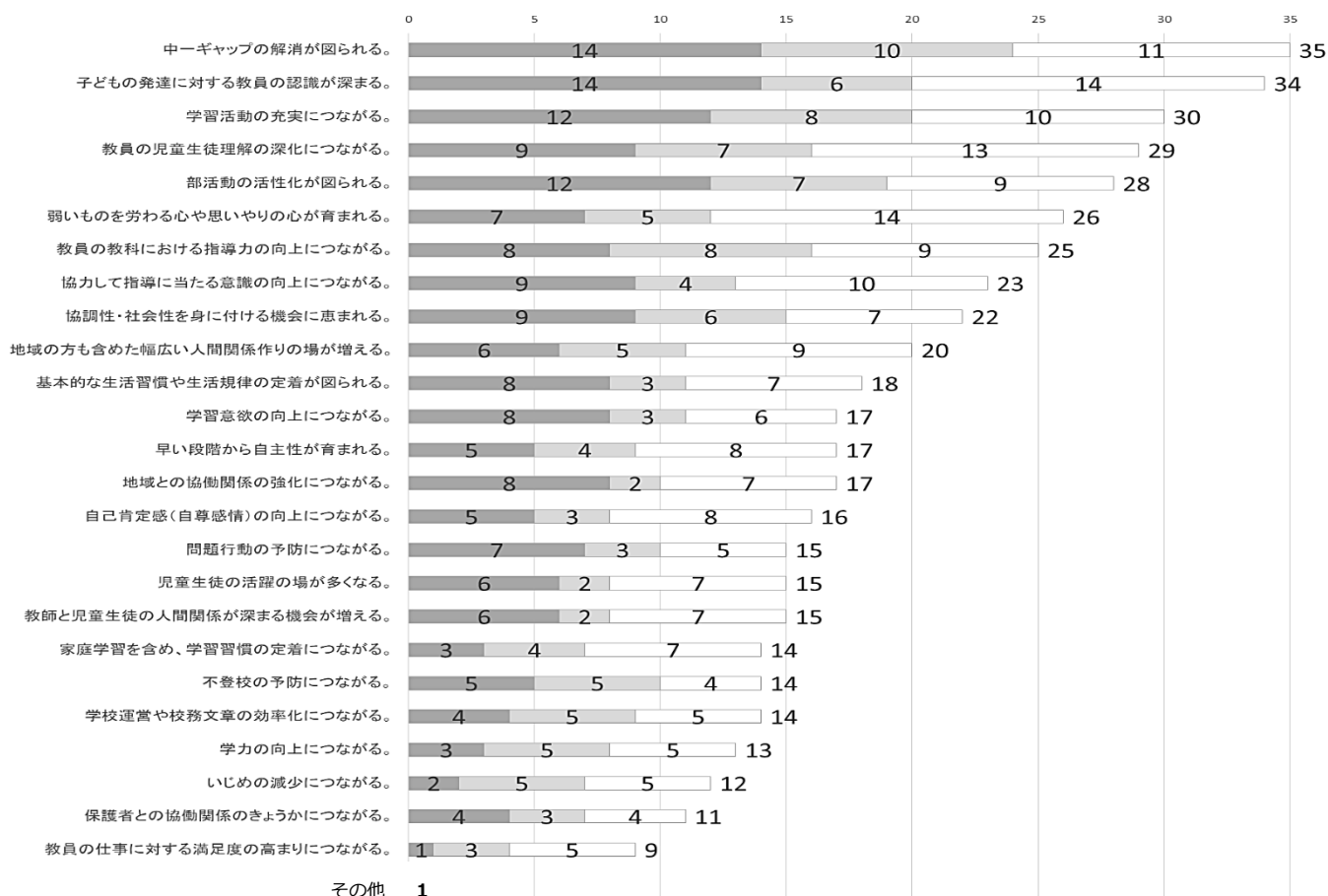
②小中一貫教育の導入は、子どもたちの成長にとって、効果があると思いますか。当てはまるものに○をつけてください。



3校とも、約8割が、小中一貫教育は子どもたちの成長にとって効果があると回答している。

③2の設問で「思う」「どちらかといえば思う」と回答された方に伺います。どのような面で効果があると思いますか。あてはまるものに○をつけてください。(複数回答可)

項目	No	質問	回答
学習意欲 学力	1	学習意欲の向上につながる。	
	2	学力の向上につながる。	
	3	家庭学習を含め、学習習慣の定着につながる。	
	4	学習活動の充実につながる。	
豊かな心	5	弱いものを労わる心や思いやりの心が育まれる。	
	6	自己肯定感(自尊感情)の向上につながる。	
	7	早い段階から自主性が育まれる。	
	8	問題行動の予防につながる。	
	9	不登校の予防につながる。	
	10	いじめの減少につながる。	
健やかな体	11	基本的な生活習慣や生活規律の定着が図られる。	
	12	部活動の活性化が図られる。	
教職員	13	子どもの発達に対する教員の認識が深まる。	
	14	教員の教科における指導力の向上につながる	
	15	教員の児童生徒理解の深化につながる。	
	16	協力して指導に当たる意識の向上につながる。	
	17	教員の仕事に対する満足度の高まりにつながる。	
	18	保護者との協働関係の強化につながる。	
	19	地域との協働関係の強化につながる。	
	20	学校運営や校務分掌の効率化につながる。	
教育環境	21	中一ギャップの解消が図られる。	
	22	児童生徒の活躍の場が多くなる。	
	23	教師と児童生徒の人間関係が深まる機会が増える。	
	24	地域の方も含めた幅広い人間関係づくりの場が増える。	
	25	協調性・社会性を身に付ける機会に恵まれる。	
その他	26	()	



子供たちへの具体的な効果について、「中一ギャップの解消が図られる」が一番多く、次いで「子どもの発達に対する教員の認識が深まる」、「学習活動の充実につながる」、「教員の児童生徒理解の深化につながる」「部活動の活性化が図られる」などとなっている。

一方、「教員の仕事に対する満足度の高まりにつながる」が一番少なく、次いで「地域との協働関係の強化につながる」、「いじめの減少につながる」、「学力の向上につながる」、「学校運営や校務分掌の効率化につながる」などとなっている。

その他（自由記述）で、「前任校（塩浜学園）での経験を考えると、色々な面で向上につながると思う」と回答した教職員がいる。

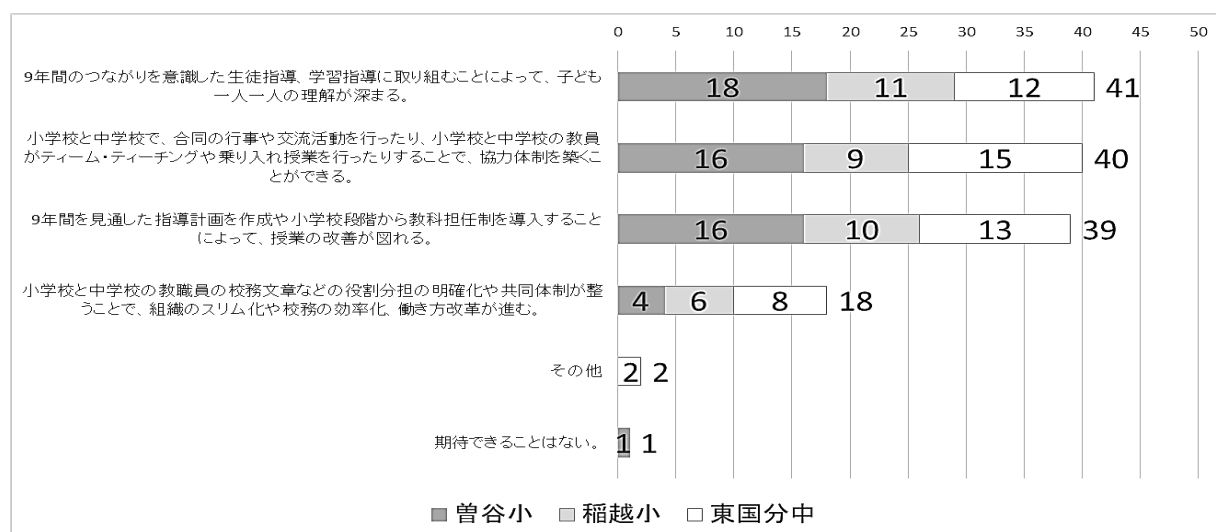
④2の設問で「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答された方に伺います。理由を教えてください。

「中学校から変わろうとしている子供たちにとってマイナスだと思う」、「小学校6年生が輝く場面が失われる」など、子供たちへの影響を心配する意見と、「校種が異なると連携が難しくなる」、「場所が離れているので、何事も効率が悪くなる」、「教員間での調整、話し合いの時間が多くなる」など、教職員への影響を心配する意見があった。

「経験したことがないため、わからない」、「今一つ効果がわからない」、「未経験のため、イメージがつかみません」など、小中一貫教育を実施する学校での勤務経験がないため、教育効果についてわからないとの回答があった。

⑤小中一貫教育の導入によって、どんな効果が期待できますか。当てはまるものに○をつけてください。（複数回答可）

- ・9年間を見通した指導計画を作成や小学校段階から教科担任制を導入することによって、授業の改善が図れる。
- ・9年間のつながりを意識した生徒指導、学習指導に取り組むことによって、子ども一人一人の理解が深まる。
- ・小学校と中学校で、合同の行事や交流活動を行ったり、小学校と中学校の教員がチーム・ティーチングや乗り入れ授業を行ったりすることで、協力体制を築くことができる。
- ・学校と中学校の教職員の校務分掌等の役割分担の明確化や協働体制が整うことで、組織のスリム化や校務の効率化、働き方改革が進む。
- ・その他（記述）
- ・期待できることはない。



小中一貫教育の効果について「9年間のつながりを意識した生徒指導、学習指導に取り組むことによって、子ども一人一人の理解が深まる」、「小学校と中学校で、合同の行事や交流活動を行ったり、小学校と中学校の教員がティーム・ティーチングや乗り入れ授業を行ったりすることで、協力体制を築くことができる」、「9年間を見通した指導計画を作成や小学校段階から教科担任制を導入することによって、授業の改善が図れる」が、ほぼ同数となり、「学校と中学校の教職員の校務分掌等の役割分担の明確化や協働体制が整うことで、組織のスリム化や校務の効率化、働き方改革が進む」が一番少なかった。

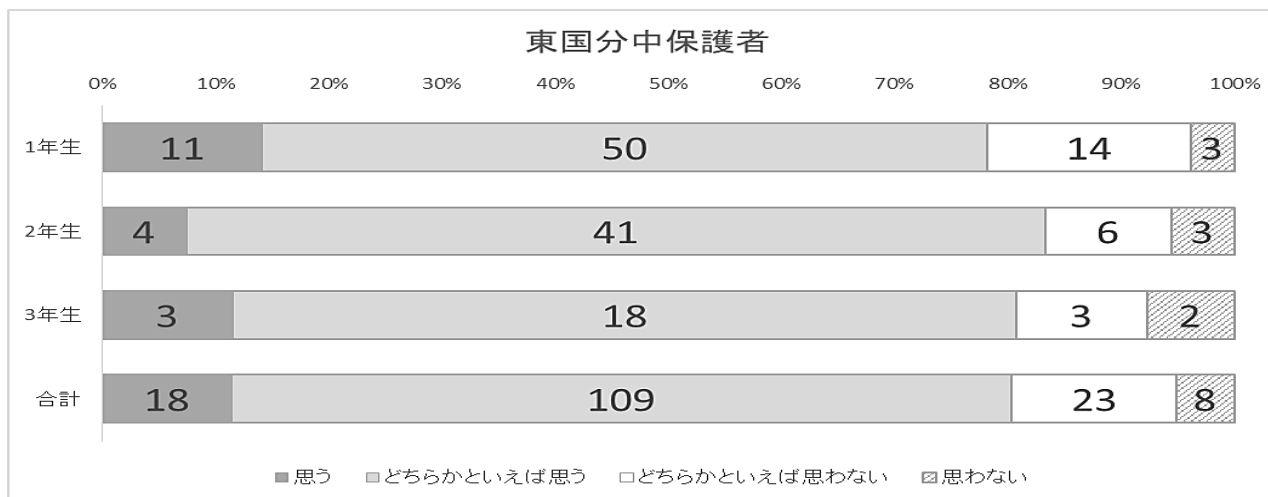
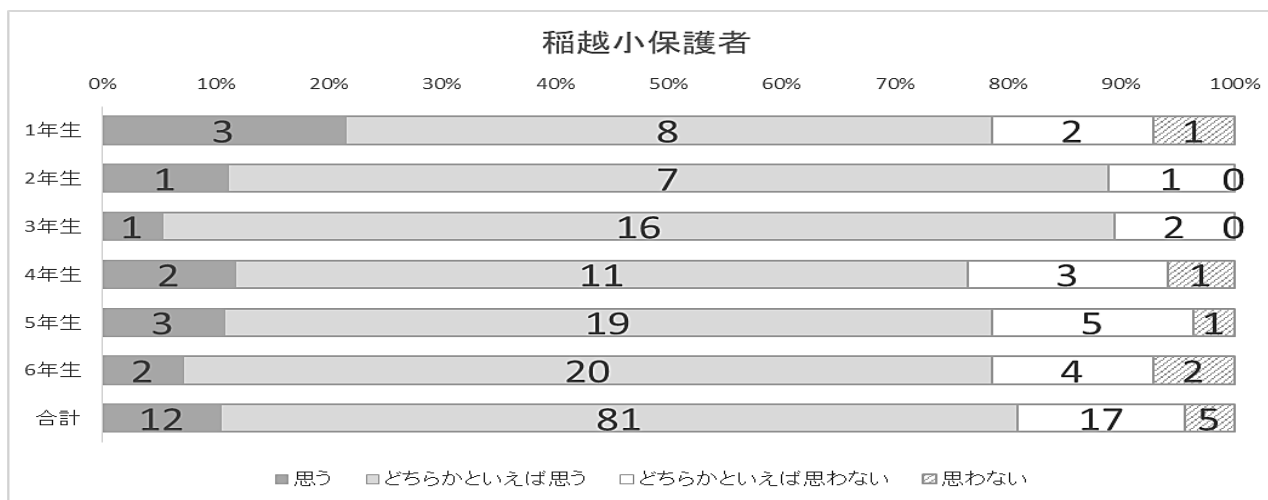
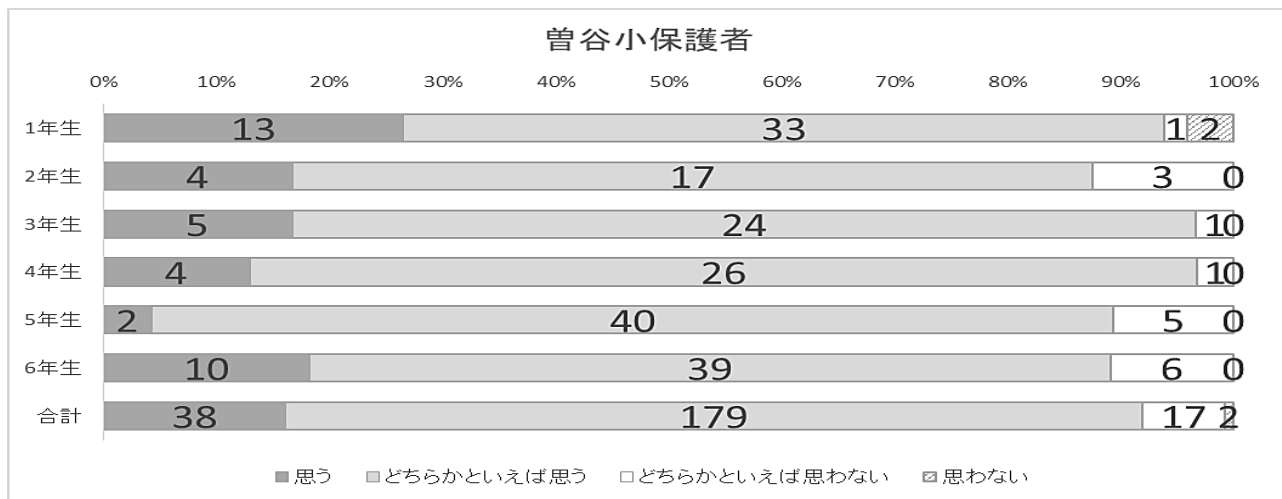
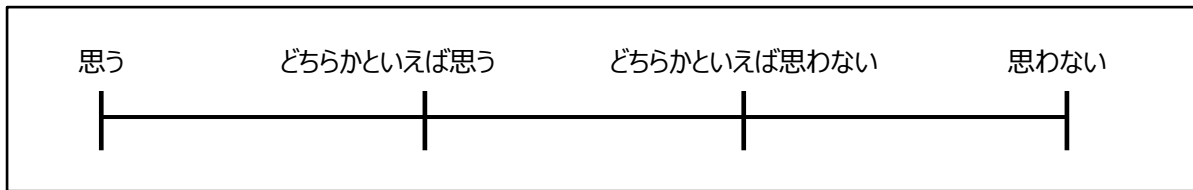
※「その他（自由記述）」の内容は、「期待することはない」とまとめて記載。

⑥5の質問で「期待できることはない」と回答した方に伺います。理由を教えてください。

「先に小中一貫となった市川の事例（塩浜学園）を踏まえて、上手に制度を編成して欲しい」「まずは、中学の35人学級を30人学級にするところから手をつけるべき」などの具体的な要望と、「小中連携となると教員間の連絡、相談の時間が多くなり、多忙化路線となる」など、教職員の負担についての記述があった。

保護者

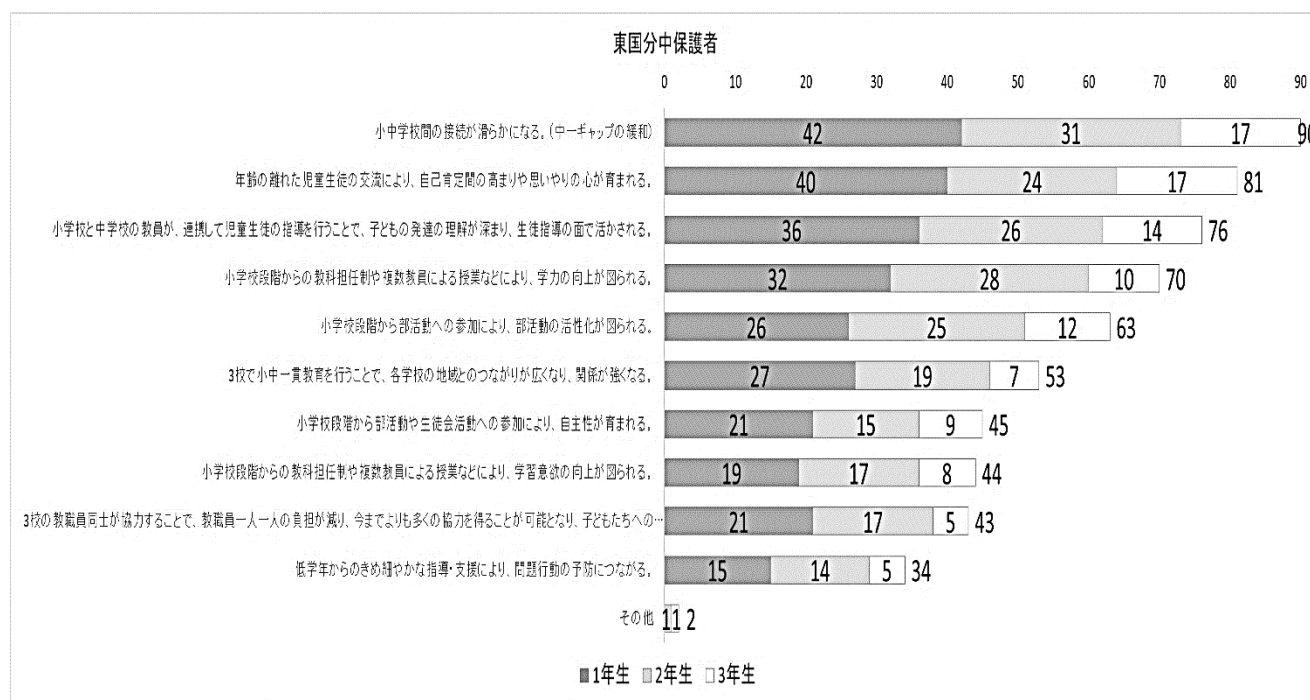
①小中一貫教育は、子どもたちの成長にとって効果があると思いますか。当てはまるものに○をつけてください。

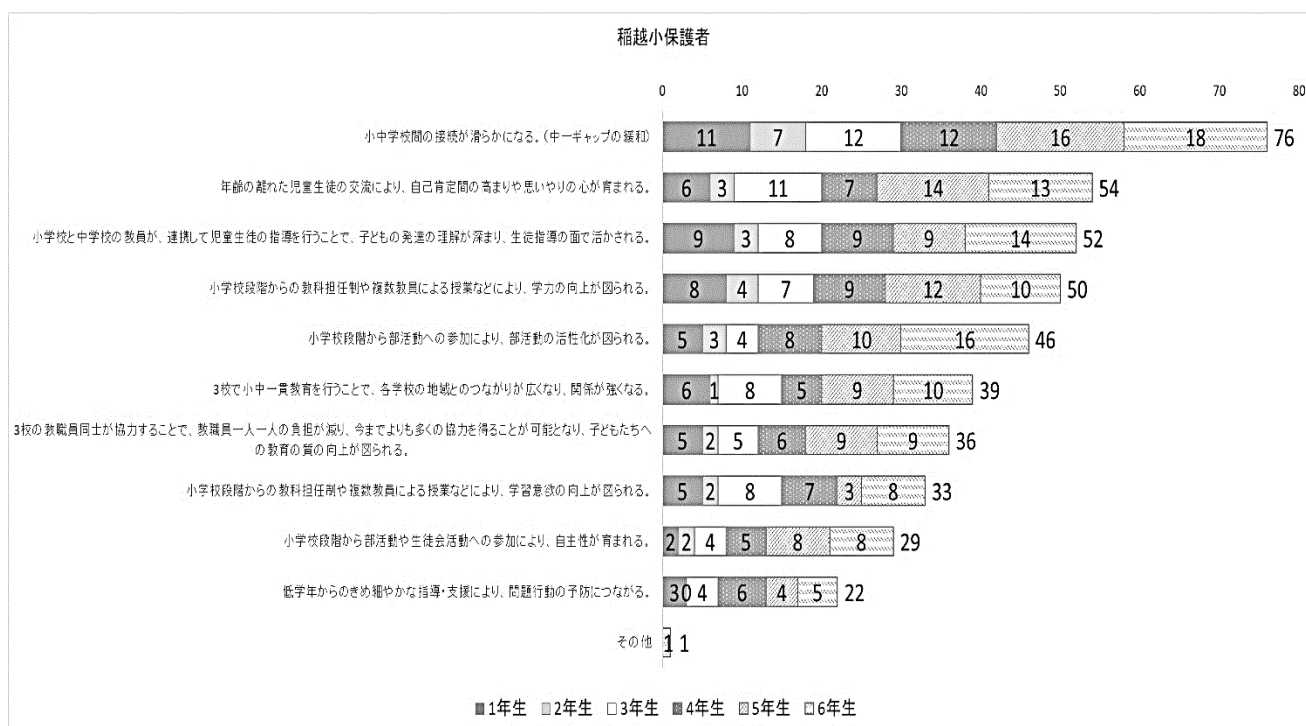
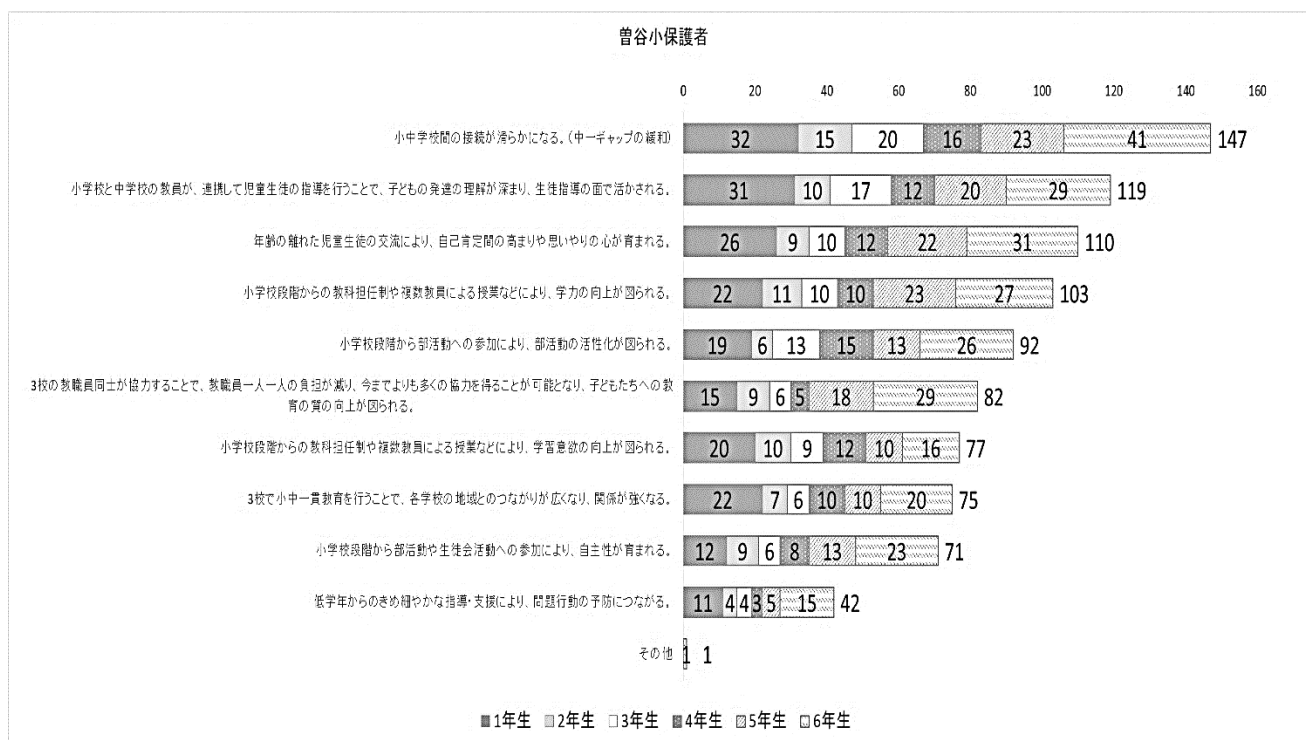


子供たちにとっての効果として、「思う」「どちらかといえば思う」と回答する保護者の割合が、小・中学校ともに約8割となり、小中一貫教育の効果を期待していることがわかった。

②1の設問で「思う」「どちらかといえば思う」と回答された方に伺います。どのような面で効果があると思いますか。効果があると思うものを全て選び、回答欄に○をつけてください。

No	質 問	回 答
1	小中学校間の接続が滑らかになる。(中一ギャップの緩和)	
2	年齢の離れた児童生徒の交流により、自己肯定感の高まりや思いやりの心が育まれる。	
3	低学年からのきめ細かな指導・支援により、問題行動の予防につながる。	
4	小学校段階からの教科担任制や複数教員による授業などにより、学力の向上が図られる。	
5	小学校段階からの教科担任制や複数教員による授業などにより、学習意欲の向上が図られる。	
6	小学校段階から部活動や生徒会活動への参加により、自主性が育まれる。	
7	小学校段階から部活動への参加により、部活動の活性化が図られる。	
8	小学校と中学校の教員が、連携して児童生徒の指導を行うことで、子どもの発達への理解が深まり、生徒指導の面で活かされる。	
9	3校の教職員同士が協力することで、教職員一人一人の負担が減り、今までよりも多くの協力を得ることが可能となり、子ども達への教育の質の向上が図られる。	
10	3校で小中一貫教育を行うことで、各学校の地域とのつながりが広くなり、関係が強くなる。	
11	その他 ()	





小・中学校ともに「小中学校間の接続が滑らかになる。(中一ギャップの緩和)」が一番多く、次いで「年齢の離れた児童生徒の交流により、自己肯定感の高まりや思いやりの心が育まれる」、「小学校と中学校の教員が、連携して児童生徒の指導を行うことで、子どもの発達・理解が深まり、生徒指導の面で活かされる」、「小学校段階からの教科担任制や複数教員による授業などにより、学力の向上が図られる」となっていることから、中一ギャップの緩和や自己肯定感、思いやりの心の育成、児童生徒への深い理解による生徒指導、学力の向上に期待していることがわかった。

一方で、「低学年からのきめ細やかな指導・支援により、問題行動の予防につながる」が、小・中学校とも一番少なかった。

※「その他（自由記述）」の内容は、「期待することはない」とまとめて記載。

③ 1の設問で「思わない」「どちらかといえば思わない」と回答された方に伺います。そう思った理由をご記入ください。

☐ 小中一貫型小学校・中学校について「よくわからない」。 ・まだ何も始まっていないため、何がいいのかわからない。 ・変化がないため、必要性を感じない。 ・先行事例（塩浜学園）の良さが伝わっていない。 ・取り組みに関する情報が伝わってこない。 ・情報をもっと発信して欲しい。
☐ 中学校へ進学する際の期待や不安も必要。 ・環境の変化に対応する力も必要。
☐ 3校以外の学校との連携はどうなるのか。 ・3校以外の学校への転入学はできるのか。 ・2つの小学校から他の中学校への進学や、国分小や中国分小から東国分中学校への進学はどうなるのか。
☐ 教師の負担が増えるのではないか。 ・教師の多忙化が心配。
☐ その他 ・小、中学生で活動する際の安全面が不安。 ・各学校の良さが薄れるのではないか（少人数での活動等）。 ・受験への意識が低くなるのではないか。 ・小中一貫教育で育った等の経験から、メリットを感じなかった。 ・小学校低学年の内から教科担任制になるのが不安。

④ その他、義務教育9年間を一貫して行う「小中一貫教育」について、ご意見がありましたら、ご記入ください。

<小中一貫教育への期待>

☐ 学力の向上 ・生徒への指導が細くなることで、学力の向上に期待している。 ・小から中への引継ぎをしっかりと行い、小中9年間の目標（子どもの姿、学習・学力）を定め、そこへ向かって指導して欲しい。
☐ 不登校への対応 ・自分の子どもが不登校だった。その頃からこのような取り組みがあれば良かった。
☐ 小・中学生の交流 ・稲越のような縦割り教育で、心の発達を願いたい。 ・地域での関わりが減っている中、子ども同士の関わりも減っている。小中の交流によって、お互いに寄り添う気持ちを育てあってほしい。 ・コロナ禍だが、行事などの交流があるといい。 ・他の学校の子の刺激があると向上していくと思う。
☐ その他 ・時代の流れを含め、ジェンダーレスに対応した制服の選択性など、慣例を大切にするばかりでない、工夫を凝らした進め方、子どもファーストで進めて欲しい。 ・子ども達が自分で選んだり、考えたり自主性を養えるような授業や生活があると良い。

<小中一貫教育への不安>

○他の学校との連携や学区について ・他の小学校から東国分中学校への進学ができるのか。 ・他の学校からの転入学はできるのか。 ・3校以外のブロックから転入してきた子へのケア、対応が心配。 ・国分小学校、中国分小との関わりはどうなるのか。 ・東国分中学校に通いたい場合は、曾谷小学校か稲越小学校へ通わなくてはならないのか。 ・第三中学校や第一中学校との関係はどうなるのか。 ・学区はどのようなになるのか。
○校舎について ・小中一貫教育をしているのであれば、早急に校舎を統一した方がいい。 ・同じ敷地内の方が良いのではないかな。 ・一貫校になったので、校舎も一体の方がいい。 ・塩浜学園のようなものが望ましい。 ・校舎が一つの方が、教師も子ども戸惑うことなくできるのではないかな。
○小中一貫による弊害について ・9年間同じメンバーだと、何かあったときに逃げ場がなくなる。 ・中一ギャップが緩和されても、高一ギャップが起きるのではないかな。
○教師の負担について ・生徒にとってはいいことづくめだが、教職員の負担が増えて大変だと思う。 ・保護者への対応が大変な時代なので、できるだけ負担を減らせるような働きやすい環境づくりをして欲しい。
○特別支援教室、学童保育クラブについて ・支援クラス、通級指導教室が柔軟に利用できるといい。設置の検討もお願いしたい。 ・今後、学童保育クラブはどのようなになるのか、詳しく知りたい。
○その他 ・早く、小学生が中学校の部活動に参加できるようにして欲しい。 ・歩道やガードレールが無い道もあるため、整備が必要。 ・通学路が長くなるので、スクールバスを作って欲しい。 ・冬場や寒い時のジャージを、小学校でも採用して欲しい。 ・小中一貫教育を推進する前に、対応できる教師の育成が必要ではないかな。 ・少人数の良さは生かして欲しい。